週刊 地震ニュース

No.228

4月1日 ～ 4月7日

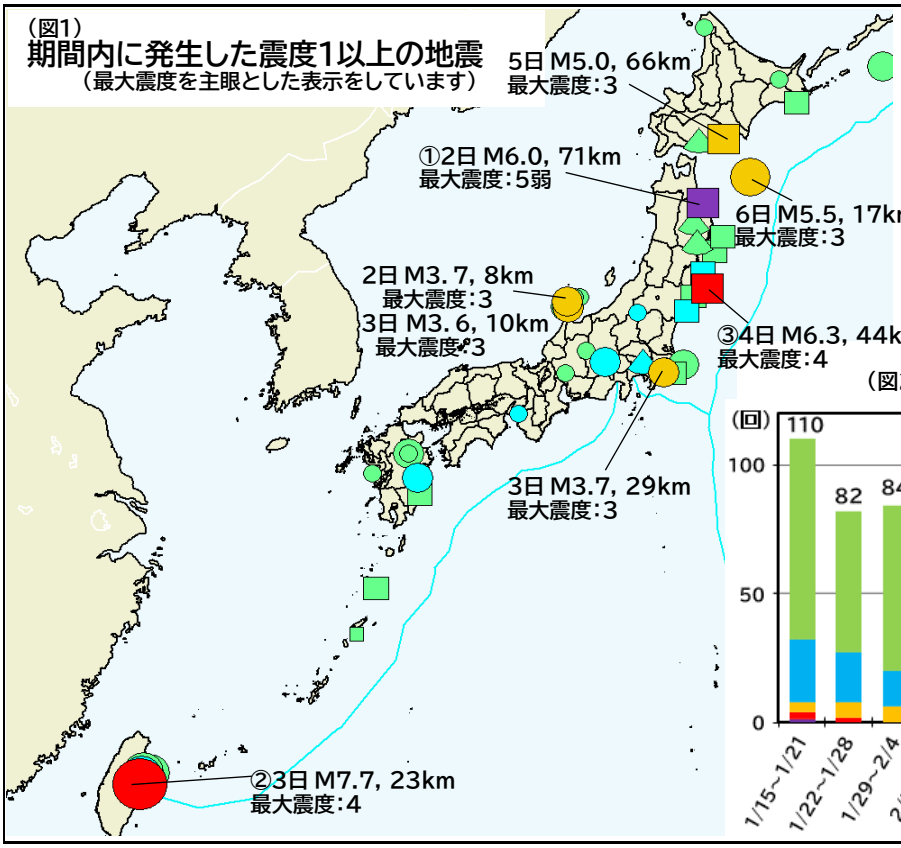
NPO法人 環境防災総合政策研究機構

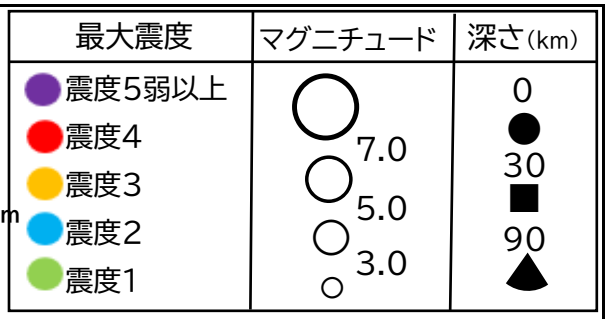
2024年4月9日 発行

この期間の最大震度は5弱（岩手県沿岸北部） 台湾の地震により沖縄で津波観測

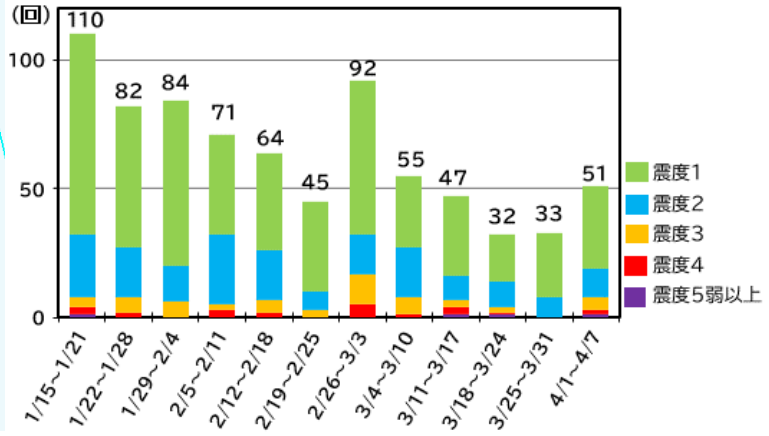
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの　（出典：気象庁震度データベース/地震情報）

（図1）
期間内に発生した震度1以上の地震
（最大震度を主眼とした表示をしています）





（図2）1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況（図1,図2参照）

■ この期間、震度1以上の地震が51回発生。最大震度は5弱。最大震度3が8回発生。台湾の地震により沖縄で津波観測。 ■

①4月2日04時24分に岩手県沿岸北部で発生した地震（M6.0、深さ71km）により、岩手県宮古市・久慈市など、青森県八戸市・三沢市などで震度5弱を観測したほか、北海道から関東地方にかけての広い範囲で震度4～1を観測。岩手県沿岸でM6以上の地震は1987年1月（M6.6、深さ72km、盛岡と大船渡で震度5：旧震度階級）以来。

②4月3日08時58分に台湾付近で発生した地震（M7.7、深さ23km）により、沖縄県与那国島で震度4を観測したほか、沖縄県内で震度3～1を観測。与那国島と宮古島で0.3m、石垣島で0.2mの津波が観測された（トピックス参照）。

③4月4日12時16分に福島県沖で発生した地震（M6.3、深さ44km）により、福島県、宮城県、岩手県で震度4を観測したほか北海道から東海地方の広い範囲にかけて震度3～1を観測。

トピックス

■ 台湾東部の地震 ■

・3日に台湾東部沿岸の花蓮県付近で発生した地震（マグニチュードは台湾中央気象署によるとM7.2、USGSによるとMw7.4）は、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界付近の地殻内で発生したもので、東にある海側が、西の陸地側に乗り上げた逆断層型の地震と考えられます。

・この地震による最大震度は花蓮県で観測された6強でした。

・台湾の震度階級は、2020年から日本の気象庁と同様に震度5と震度6を強・弱に細分した0～7の10階級となっています。

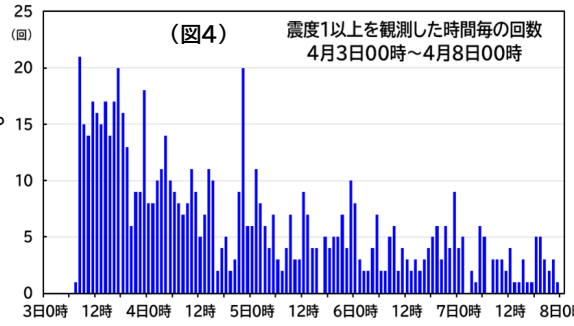
・余震の発生状況は図3（震源は台湾中央気象署による）のとおりで、余震の多くは本震の北部で発生しており、増減を繰り返しながら次第に少なくなっています（図4）。

・報道で良く出てくる花蓮は、震源域の真ん中に位置しています。

・台湾付近は日本同様に地震活動が活発な地域で、今回の震源となった台湾東部では、これまでも繰り返し規模の大きな地震が起きていますが、マグニチュードはおおむね7以下です。

・報道が伝えている現地の状況を見ると、少しでも快適に過ごせるような配慮が施された避難所の運営や倒壊したビルの迅速な撤去作業などの復旧に向けた動きは、私たちも見習う点が多いと感じます。

（図4）震度1以上を観測した時間毎の回数
4月3日00時～4月8日00時



（図3）

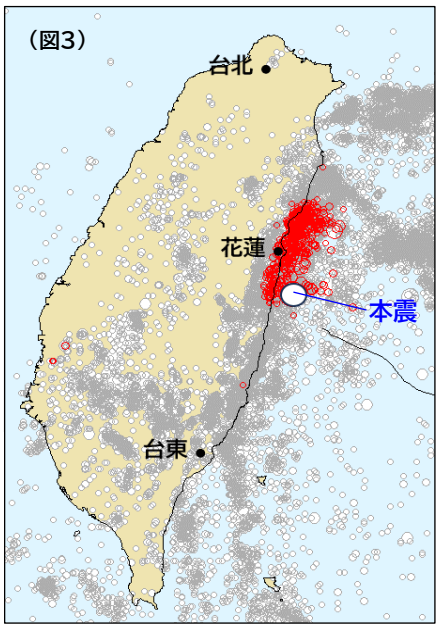


図3：震央分布図
台湾中央気象署の震源データを使用
2014/1/1 --- 2024/4/7　M≧3.0
灰丸：2014/1/1 --- 2024/3/31
赤丸：2024/4/1 --- 2024/4/7